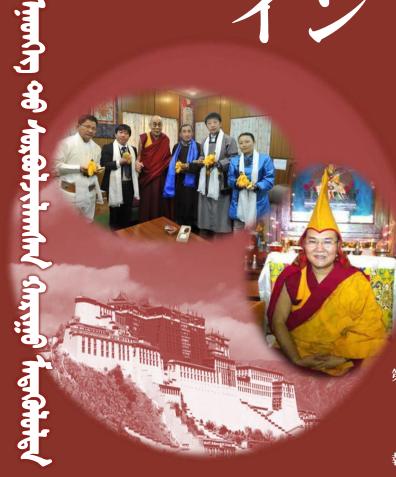
インド訪問報告



4月9日(土)

時間: 4月9日(13:30~16:00) 場所:大阪市淀川区民センター (郵便532-0022大阪市淀川区野中南2-1-5)最寄駅阪急 「十三 |下車徒歩7分

主催:モンゴル佛教会&一般社団法人 南モンゴル自由民主運 動基金会

共催:南モンゴル文化促進会 連絡先:080-3844-8028 さて、昨年9月に南インドのデプン寺と北インドのダラムサラを訪問し、前者では南モンゴル出身のサンギャ・ホトクト(現在デプン寺のゴマン学堂で修行中)と会って訪日を要請し、後者ではダライラマ猊下じきじきに会見していただいた。

ちなみに、サンギャ・ホトクトは、あまり知られていない存在故、ごく簡単に紹介すると、清朝時代にはドロンノール、北京、五台山等の諸寺の僧俗を主管し、ダライ・ラマ、パンチェン・ラマ、ジェブツンダンバ・ホトクトに次ぐ存在として非常な権威を誇っていた活仏である。歴代のホトクトには、第一世には釈尊の馭者であったチャンダカ、第八世にはフビライ・ハーンに仕えたパクパの名が見受けられる。

現ホトクトは、第二〇世であり、一九八〇年にアムドのツォンカで誕生され、一 九九八年にインドに亡命。同年にダライ・ラマから正式に転生者として認定されて おられる。

われわれ代表団は、デプン寺に滞在中は自宅に泊めていただき、訪日にも関して も快諾していただいた。

一方、ダライ・ラマ猊下には病み上がりの身にもかかわらず、親しくお会い下さり、その席上南モンゴルの現状をご報告させていただいた。

以上が、簡単なインド訪問の概略ですが、その際の状況を皆さんにご報告すべく 以下の日程で報告会を催したいと企画しています。どうぞ、ふるってご参加のほど をお願い申し上げます。

第一部 13:30~14:15

小滝 透

ノンフィクション作家、ジャーナリスト。第2回・第9回毎日21世紀賞受賞。国際情勢に加え、文化・宗教・歴史などを扱う。著書は『神の世界史イスラーム教』、『戦後70年日本転覆思想』などがある。

報告テーマ

デプン寺で考えたこと――チベット密教(ゲルク派)と日本密教(真言宗)

休憩 14:15~14:30 第二部 14:30~15:15

オルホノド・ダイチン

モンゴル自由連盟党党首。機関紙「ジユウモンゴル」の編集長。著書は『日本は中国にこうして侵略される』(共著)、『墓標なき草原』(上下 楊海英 著)のモンゴル語版の監訳。中国共産党政府の圧迫を受ける南モンゴルにおける自由、民主、人権を訴える活動をしている。

報告テーマ

理念と信仰のあとを追って―ダラムサラ訪問の感慨

質問回答 15:15~16:00